

導入事例



建築本部 生産BIM部
竹田 宥一郎 氏



建築本部 生産BIM部
伊藤 将貴 氏

三井住友建設株式会社

本店：〒104-0051 東京都中央区佃二丁目1番6号

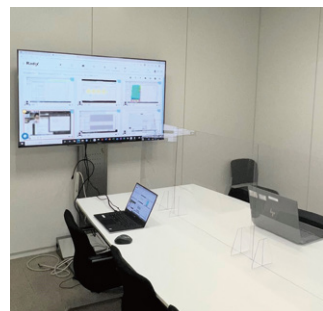
ホームページ

<https://www.smcon.co.jp/>



三井住友建設

三井住友建設は、建築業界で近年重要視されているBIM導入を推進しています。BIMツールの活用には建築設計・生産などに関する知識に加えて、ツール自体の操作方法の理解が必要で、利用者への教育が必須です。しかし、コロナ禍ということもあり、全国で展開している同社にとって、受講者を1カ所に集めて行う教育が難しくなっていました。そこでオンライン授業・学習支援システムのTeacherViewを使用し、コロナ禍でも十分なBIM教育が可能になったことで、建築業界におけるDX推進に向けて取り組んでいます。



BIMツールと教育

三井住友建設は、明治時代に創業した三井建設・住友建設2つの総合建設会社の遺伝子を受け継いで2003年に創立した日本でも有数の総合建設会社です。毎年多くのタワーマンションや商業施設、物流倉庫のような大規模な施設の建築事業、産業や生活の基盤となる橋梁、トンネルのような土木事業に携わっています。

近年のデジタル化やDXの流れは建築業界でも重要になっており、同社でも現場での図面管理、施工管理など、従来は紙で行っていた作業を、iPadを施工管理技術者に配布することで、効率的に行うような改革も積極的に推進しています。建築業界では近年BIM (Building Information Modeling)の利用に注目が集まっています。BIMとはコンピュータ上に作成した3Dの形状情報に加え、名称、材料、部材の仕様などの情報を利用して、企画、設計、施工、維持管理などの建物ライフサイクルを通して活用をすることであり、建築DXを推進する上で非常に重要なソリューションです。建築業界では、各社でロードマップを作成し、最優先で取り組んでいる状況です。国土交通省が2021年1月に行った調査によると、ようやく導入率が46%になりましたが、同社ではいち早く導入し、社員向けの研修も行い設計施工業務などに活かしています。

BIMはBIMツールと呼ばれている専用のソフトを利用するため、このツール自体を使いこなすためのBIM教育を円滑に行う必要があります。従来なら1つに集めた教室で対面での講義を行いましたが、コロナ禍によって実施が難しくなっていました。特に問題になったのが新入社員向けに2018年度から始めたBIMツールの講習です。コロナ禍という事もあり、2021年度の対象となる全国に散らばる新入社員47名の受講者を、1つの場所に集めて対面で行うことが難しくなったため、オンラインで行う必要がありました。

スムーズな画面共有で導入を即決

講習内容をライブ配信するだけでも実施は可能ですが、受講者が実際に操作の理解ができていないかを確認するために受講者側の操作画面を確認する必要がありました。そこで、講師の説明を聞きながら、受講者のBIMツール操作状況を講師が確認できる教育ツールを探るところから始めました。建築本部生産BIM部の竹田宥一郎氏と伊藤将貴氏がインターネット検索を使い「受講者側の画面共有機能もありそうなのは学校向けソリューションだろうとして、学校向けソリューションを調べTeacherViewや他社製品を見つけた」として、TeacherViewや他社の製品に絞り込んだそうです。

